

報 告 書

2012年 1 月 23 日

会派代表者 望月厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務調査費による海外視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	1921年12月16日（金）～23日（金）	
2 視 察 先	(1) 国・都市名 視 察 先 施 設 等	フランス ニース市：市内視察 カンヌ市： カンヌ柔道クラブ カルノ高校 パリ市： クレアパリ カリエール・ス・ポワシー市：子育て支援施設
	(2) 対 応 者	カンヌ市長 ベルナル・プロシャン氏 日仏協会長 ジャン・クロード・ボミエ氏 在マルセイユ領事館 領事 長沢秀一氏 カルノ高校校長 マリ・グエオ氏（説明者） カリエール・ス・ポワシー市長 エディー・アイ氏 家庭保育所 マリー・ジャンヌ・ボーヴェ氏 保育所 ヴェルジニア・ダ・シルヴァ氏
3 目 的	カンヌ市姉妹提携20周年親善訪問 カンヌ柔道クラブ交流訪問 クレアパリの活動実態について 少子化対策で、特殊出生率を上げたその根拠を探る。子育て支援の実態などについて	
4 内 容	(調査事項・調査結果を具体的に) 事前学習 ① 主目的は、20年前に締結した姉妹都市の記念親善訪問であることは間違いないのだけれど、せっかくフランスに視察に出掛けるのだから、いま日本が抱えている、少子化問題、どんな方法で、何故、特殊出生率を上げる事が出来たのかを調べたいと思った。 いろいろな機会をつくって、フランスの子育て事情を調べてみた。女性の社会進出が日本よりも進んでいるフランス（パリなど）は、共働きの夫婦が多い。都会では託児所の待機児童が多くいる	

とのことだ。フランスでは2001年2002年がベビーブームだったとの事。そして、2002年には、父親の産休が3日の特別休暇から11日に増加の法律が施行された。その間の給料は、保険で賄うのだという。このあたりの成果か、現在数年前から特殊出生率が向上しているのだ。また子供を預かる施設。クレッシュ（託児所）とアルト・ガルドリー（一時託児所）がありそれぞれ公営と私営がある。クレッシュは共働きの預かり施設。後者は、一日3・4時間預けられる施設で、片働き、専業主婦（夫）でも預かりオーケーだ。子供のしつけは、小さいうちから、夜は一人で寝かせる。フランスは大人中心の社会で、大人が暮らしやすいように子供をしつけている。母乳よりミルクが断然多い。等情報を得たが、フランスの子育て事情を実際に施設も訪問し、伺う事とした。（国際課に依頼し、オプションで行政視察）

②姉妹都市提携の経緯、背景など

1991年(平成3年)11月5日(旧静岡市)と姉妹都市提携。当時の天野進吾市長は、市内の用宗海岸一帯を、日本のコートダジュールにする計画を立てていたもので、まずは姉妹都市提携をし、海岸整備をした経緯がありました。その後毎年、市内で、映画祭などを企画したり、文化的な交流や人的交流を深めてきました。15周年記念の際も40名ほどの親善使節団を編成し訪問しています。5月のカンヌ映画祭の時期に、市内でもその時期に合わせて、フランスフェアが開催されて来ています。

それではまず、そもそも、フランスについては・・・

人口約6,467万人、面積は約55万km²、人口密度は日本の約3割である。平野部が多い。

『フランス地方行政事情』

フランスは共和制で、大統領制+議院内閣制がその特徴。2011年9月現在の県議会の選挙結果は最大野党・社会党が36,2%獲得し勝利。サルコジ大統領の与党、国民運動連合は18,6%で惨敗。左派系が6割を占める。ねじれが生じている。フランスの地方自治制度は、市町村(コミューン):基礎自治体・県(デパルトマン)州(レジオン):中間的自治体で、その上に国がある。州が日本の県に当たり、100ある。州は26ある。コミューンは36000にも上り、その規模は極めて小さい。人口2000人未満である。日本の各町内会にも満たない数字だ。フランスは過去に何度も合併を進めたが成功しなかった。又このコミューンの議員定数は51万人で、人口130人に一人の割合だ。議員は住民の直接選挙で選ばれて、任期は6年。市長及び助役は議員から互選でえられ、市長と議長は兼任。一般の議員も他の仕事を

しながら議員を務める事が出来る。税金の徴収は国の役割で、消費税は19・6%国税となる。食料品など生活必需品は5%。コミュンは都市計画、小学校、幼稚園、保育所等の設置・管理。ごみ清掃、図書館の整備などを所管する。人口が少ない場合は、日本の一部事務組合のように広域連合体で対応している。

『ニース市内視察』12月17日

カンヌと同様地中海に臨む国際高級リゾート地。物語で読んだノートルダム寺院・青の色遣いが素晴らしい、シャガールの美術館等の芸術的な点、また、マセナ広場など文化伝統歴史を感じさせる町並みとその人ごみ。そこに走っていたLRTに思わず歓声が上がった。はてさて、我が静岡市にこの公共交通が実現できるやらないや？道路の広さを思わず比較してしまったが。。

『カンヌ市』

人口73,903人面積19,62平方キロ
一年中暖かく晴天が続き乾燥しているが、ニース、モナコと並ぶ国際リゾート地。年間180万人の観光客が訪れる。ヨーロッパ1を誇るコンベンション会場“パレ・デ・フェスティバル・エ・デ・コングレ”があり、年間252,000人の会議参加者がある。もちろんカンヌ映画祭の会場でもある。

『カンヌ柔道クラブ訪問』12月17日

このクラブには、フランスチャンピオン、世界チャンピオン、東海大学で練習した選手等が所属している。日本のオリンピック体操選手なども訪問している。フランス国内でも、有数の強豪クラブだとの事。フランスの柔道競技人口は70万人と言われているが、お家芸の日本は20万人余りで、いかにフランスが柔道が盛んなのかがわかる。道場には、加納治五郎の写真や柔の文字が掲げられていたり、しっかりと日本の伝統芸が伝えられていて、これだけ盛んなのは素晴らしいと思った反面、日本もうかうかしては行れないと思った。今年の秋頃には、静岡に来られるとのことだ。交流が楽しみだ。

『カンヌ市主催20周年記念夕食会』12月17日

カンヌ市からのメッセージ マナブ・クローン氏

まず、東日本大震災に対する哀悼の意が述べられ、20周年を機に静岡・カンヌの交流を益々深めていく、安定させていきたいと思います。この歓迎の挨拶をいただいた。

静岡市からの返答の挨拶 田辺市長

1991年に姉妹都市提携を結んで以来、教育、文化、スポーツ等の分野で、市民を主体にしてさまざまな交流が行われてきた。それぞれに貴重な体験をさせていただいた。カンヌの皆様の心のこもった歓迎、温かい人柄、土地柄により、両市の交流が維持でき、

友好関係が保たれてきました。大変名誉なことです。これを機会により一層友好が深まり、次代へ受け継がれるように祈ります。

勲章の伝達

在マルセイユ領事館の長沢秀一領事から、カンヌ日仏協会・ジャン・クロード・ボミエ氏に、天皇からの旭日双光章が伝達された。これは、3・11で、東日本大震災に対してフランスからチャリティー支援活動に取り組み、これまでの友好に加えて、より深い友情関係を築かれた事に対して授与された。

最後に、

会場あちらこちらで、話の花が咲いていたが、在仏のマリコ氏のピアノ伴奏で、参加者全員で“ふるさと”の大合唱。20周年の記念夕食会は、より深い親睦と交流を深め新たな一步を踏み出した。10周年の記念碑と記念植樹の紅葉はしっかりと成長し、友好の象徴でした。

『ホームビジット』12月18日

4家族の日仏協会の方々が、集まって、歓待して下さった。フランスと言えば香水、近くの香水工場の見学もさせていただいた。香水の製造工程等見せて頂いたが、本当にこんな小さな工場から世界の香水が出来ているのだとびっくり。ジャパニーズ・プリンセス(雅子様)の銘柄があった。親日度が伺える。で、皆で囲んだ昼食の支度はすべて旦那様たちだった。これにもさすがフランスと感心させられた。育児ばかりではなく家事全般に協力的なのを実際拝見できた。

『カルノ高校訪問』12月19日

日本語学習が盛んな国立の高校。専門コースを設けていて、かなりハイレベル。卒業が大変。フランス唯一のアートクラスがあり、最先端のオーディオ設備(スタジオと映像制作室がコンピューターで結ばれている等)を使い、プロさながらの授業をしている。建物は、歴史的なものの一つで、階段などが大理石でできている。

『地震体験発表』12月19日

フランスも3・11の東日本の大震災にかなり高い関心を寄せている。静岡市の被災地への支援活動などの内容をパワーポイントを使い市長と国際交流協会職員が説明。田辺市長は、仙台市を訪れた際、「地震対策はしっかり取り組んできたが、いざ、実際起きてみると、出来たことは少なかった」と報告を受けたことを伝え、「30年来る来ると言われていて来ていない静岡。安心だから静岡に来て下さい」と宣伝した。地震対策の第一は、まず、“自分の命は自分で守る”意識を徹底させる事と、津波には、5分で50メートル、一番高い処に逃げることの訓練の継続が大事だ。高い処のない所には、避難施設を整備する。過去の安政の大地震の説

明などもされた。

『カンヌ市内視察』 12月20日

中世の雰囲気が残る旧市街地。地元の人たちでにぎわうレストラン。この時期、外での食事を楽しんでいる。ブランドショップが並ぶ新しい町並みと海岸通り。さすが世界のリゾート地。古き良きものと新しいものが見事に調和している。古城から見た、統一された屋根の色や壁の色遣い、海の青さにとてもよくマッチていた。

『クレアパリ（財団法人自治体国際化協会パリ事務所）訪問』

12月21日

クレアパリの事業概要は、日本側地方自治体と所管国地方自治体に対して①情報提供・調査研究②国際化支援③経済分野活動の支援④JET事業支援⑤情報発信⑥連携強化・情報交換であるが、昨今厳しい財政事情の中、パリ事務所の予算も、2010年は、152百万円・18.3%の削減。分担金も削減されているなど厳しいが、地方自治体の国際交流に於いて、経済分野活動への交流のニーズが高まっている。その支援に重点を置いている。総務省の成田所長など各自治体の職員11名（日本人7名現地人4名・いずれも日仏語堪能）で構成されている。地方自治体からの依頼は2010年は17件。女性医師の勤務環境の現状と改善策の調査等があった。クレアレポート（自主調査研究）は、フランスにおける子育て政策・観光政策・都市計画その制度と現状・環境配慮型交通政策等があげられる。またフランス駐在の日本人団体職員向けに、観光客誘客などの研修も行っている。姉妹都市の橋渡しも大きな役割だ。2011年4月現在の姉妹都市提携は48か所にのぼる。また、経済的支援として、ジャパソ・エキスポやパリ国際食品見本市への出店の誘いなどを行っている。

『フランスの子育て支援の現状』 12月21日

少子化問題が大きな課題になっている中、フランスの特殊出生率は2010年の2.01、2009年の2.07と高い。日本は、2010年1.39、2009年1.37である。かつてフランスも1.65のころがあったが、この伸びの大きな要因は、家族給付制度などきめ細かな政策の展開があげられる。家族政策は多様な選択肢を用意し、仕事と家庭の両立を可能にしている。共働きが一般的な中で、女性が働き続けられるように多様な保育サービスを提供、その中から自由に選択し多様な働き方が出来ている。

★家族政策

家族給付制度で、家族手当、家族補足手当、就学年手当、乳幼児受け入れ手当がある。家族手当：子供2人以上（所得制限なし）月額、子供2人で約1万4千円、3人で3万2千円等で、総支給額

は、1兆3176億円（2009年）受給該当者は468万人。乳幼児受け入れ手当は、3歳までの子どものいる家庭は月額2万円、出産手当は約9万9千円だ。で、出産費用は全額無料。

★休暇制度

出産休暇日本は14週、フランスは16週。父親の休暇は最長11日間有給休暇取得可能。育児休暇は1年間完全休暇、最長3年まで延長できる。父・母どちらでも可。

★保育所

クレッシュ（託児所）とアルト・ガルドリー（一時託児所）があり、前者は、3歳未満の恒常的保育で、後者は6歳未満の子供短時間、あるいは、一時的に保育する施設。

★幼稚園

3歳から6歳の子どもを恒常的に保育する。

★保育学校

小学校就学前に位置付けられた教育施設。（無償）3歳以上の子どもの就学を保障。就学前の子供はほとんど通う。学童保育もある。

★家庭保育所

認定保育ママを自治体が集団として運営管理し、保護者は自治体と契約する。

★認定保育ママ

自宅で認定保育ママが預かる。定員4名で、保護者は認定者と個人契約する。

★ベビーシッター

自宅で保護者が雇用する
さまざまな費用は、保護者1割負担だが、所得によっても異なる。

※3歳時未満の6割が保育サービスを利用し、その内でも保育ママが半分だ。

※日本との違いは、多くの子どもは3歳から保育学校に通うため、待機児童は3歳未満のことだ。

※フランスの保育所は保健衛生法に位置付けられ、児童福祉の観点のほか障害児や慢性疾病罹患の子どもの社会的統合を考えている。また、保護者の仕事との両立も謳われている。日本は、保育所は、児童福祉施設（児童福祉法）で、措置されている。

※フランスの今後の課題は、育児休暇の3分の1は、保育所が見つからず仕事を断念することだが、やむおえず、ベビーシッターを探す羽目になる。かなり費用にばらつきがある。

『カリエール・ス・ポワシー市の子育て施設視察』12月21日

●エディー・アイ市長（イル・ド・フランス州議会議員）

	<ul style="list-style-type: none"> ●ラエティティア・ドゥ・ジュビニ助役（子育て政策担当） ●カトリーヌ・ヌ・ジョックニバタ助役（地方分権・交流担当） ●ヴィルジニア・ダ・シルビア保育所所長 <p>人口1万5000人のカリエール市。4か所の保育所と家庭保育所があり、27人の勤務ママがいる。70人の子どもを預かっている。市全体で400人の子供を保育しているが、待機児童が150人いる。今後2年間で40人収容の保育施設を4施設整備予定。フリーの100人の保育ママがいるので、来期保育ママセンターを整備し多様な保育ニーズに応じていく予定だ。視察したのは、レ・ピッシュン保育所。多機能な保育所でさまざまな保育の要望に応じている。定期預かりは20人。保育士は7人。調理師1名。かなり衛生面に気配りをしている様子が伺えた。外部視察者の私たちは手の洗淨や靴にカバーをしての入室など徹底していた。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>20年はあつという間なのか長いのか？姉妹都市提携をして、お互いにどれだけの交流が生まれたのだろうか？初めて会った人たちの笑顔を見れば、その壁の薄さが実感できる。素晴らしいことだ。ベルナル・ブロシャン・カンヌ市長、ジャン・クロード・ボミエ・日仏協会長や何よりも会員の皆様の温かい歓迎ぶりに心打たれた。是非皆さんにも静岡にお出で頂きたいものだ。カストロ博物館からのすばらしい眺望、12世紀の旧市街地の町並み、何といても地中海の海の青さにマッチするレンガ色の屋根と壁の色、調和がとれた街並みとはこういうものをいうのだと実感できた。又建物の高さや、広告の仕方など、さすがと思われた。フランス人のセンスの良さは、ファッションばかりではなく、このような街づくり、都市空間の作り方にも生かされているのだと感心させられた。日本人はとかく新しい事に目を向けてきた傾向があるが、昨今、少しずつ見直されてきているように思う。市長も、あるものを磨いていく、歴史に埋もれたものを発見していくと言っておられます。徳川家の埋もれた歴史的発見や、東海道の53次の宿の見直し等また、小さな町中の発見もあるかもしれない、自分たちの持つ文化や伝統に誇りを持つべきだと思って帰ってきました。人口7万4000人のカンヌに180万人の観光客が押し寄せる。比べる方がばかしくなりますが、この都市と姉妹都市である訳だから、ここを利用しない手はない。もう少し上手に連携していきたいものだ。今やっている静岡カンヌウィークも再考の余地があるのではないだろうか。姉妹都市の在り方ももう少し考えてみたいものだ。提携に意味があったのではなく、静岡の特徴をどう伝え、相手の市を自分の土俵にどう乗せられるか勝負どころだと思う。映画館街の再興も含め熟考すべきと思う。</p>

子育て支援は、婚姻関係がなくとも、支援が受けられる等、文化が違う。日本では、社会慣習的に、まだ抵抗がある婚外子も平等の思想まで行くには、時間が必要だ。幼児教育学校のシステムがいまいち理解できない。今後、幼保一体の施策が進む日本に於いて、参考出来る事は積極的に取り入れるべきと思った。



バルナール・プロシャン市長と



見事な色の調和・カストロ博物館で



レ・ピッシュン保育園で